



絵本作家 宮西 達也 氏



プロフィール

1956年熱海市生まれ、清水町出身。日本大学芸術学部美術学科卒業。人形美術、グラフィックデザイナーを経て絵本作家に。「きょうはなんてうんががいいんだろう」(鈴木出版)で講談社出版文化賞絵本賞を受賞。「パパはウルトラセブン」(学研)などでけんぶち絵本の里大賞を受賞。現在三島市在住。

三島の未来に向けて 絵本で故郷に恩返し

2017年5月に三島の大通り商店街に絵本の原画などを展示するギャラリーをオープンした三島市在住の絵本作家・宮西達也さんにお話を伺いました。

——どうして三島にギャラリーをオープンされたのですか？

三島、清水町、沼津で子ども時代を過ごして、この辺りには思い出が沢山あります。ギャラリーを作ろうと思った時、やはり思い入れのある場所、恩返しとして原画を見せたいと思いました。その中でも三島は、新幹線駅があり東京などからも訪れやすいことから、この場所を選びました。

普通は目にしない原画を展示することで、一人でも多くの子どもたちが絵本や文章に興味を持ち絵本作家になりたいと思ってくれたら嬉しいですし、そんなチャンスがあるのだと子どもたちに伝えたいです。

僕がいて初めて成り立つ場所にした

観光地によくある、本人のいない芸能人のお店みたいにはしたくなかったです。

ギャラリーを開けられる日が少なくて、実際にお客さんとお会いできれば少しでも話せます。どうしてこの絵本を作っ

たのかを説明したりサインもしてあげられる。そうできると、楽しかった、見に来て良かったのもっともって気持ち膨らませてもらえると思っています。

将来的にはここで読み聞かせおじちゃんになりたいです。それが夢ですね。

絵本で描くのは、子供の頃に感じた気持ち

僕が絵本で表現したいのは、優しさや思いやりといった「心」の部分です。商店街のおばちゃん優しく声をかけてくれたり、迷子になった時に預かってくれたり、今も心に残るこの地域で味わったあたたかい気持ちを描いています。

子どもの頃の楽寿園は、遊園地であり動物園でしたし、小浜池には水が溢れていました。三嶋大社も遊び場でしたし、夏祭りや初詣では友達と三島の大通りを何往復もしました。

三島はちょうどいいくらいに都会で田舎。人間的なあたたかみを子どもながらに感じていましたね。

東京から三島に拠点を移されてご自身に変化はありましたか？



三島市「あかちゃんの家」事業ロゴマーク

「宮西達也ミラクルワールドシアター」を開催！

今年(2018年)8月23日・24日の三島ゆうゆうホールを皮切りに、全国で開催します。ホールに入る前から楽しい絵本の世界が広がり、楽団の前にはダンボールアートがあって時々ティラノが飛び出して来たり。他にも読み聞かせやライブペインティングなど色々なことを計画中です。またまプロデューサーがギャラリーへ来て、この世界を音楽とコラボしたら面白いという話になりました。ここがあったからこそ生まれた企画を、またここから発信していきたいですね。三島の皆さんに是非見ていただきたいです。



宮西さんデザインの中央町手ぬぐい

TATSU'S GALLERY
 静岡県三島市中央町4-10
 開廊日はFacebook「宮西達也さん(勝手に私設応援団)」でご確認ください。



宮西さんの遊び心に溢れたギャラリー

制作に詰まった時に、すぐそこにある三嶋大社を歩きます。大社へ行けば木も土も水もある。自然のものは目に良いですし、何より心が休まります。そうやってリフレッシュできますから。

予想外だったのは編集者が東京にいる時よりも僕のどこに来るんです。三島は新幹線があつて便利だし、うなぎも食べれて帰れるでしょ！三島は中途半端に便利で田舎で。それがちょうどいいですね。

まずは大人の意識改革

文化が弱いところは滅びます。ギャラリーと聞くだけでハードルが高いと感じてしまう状況が今もあります。僕ももっと風通しのいい店にしたいんです。先程看護師さんがお仕事の昼休みに来て下さいました。

休み時間にふらっと立ち寄って原画を見て、「楽しかった」「綺麗だった」と気分転換してもらえ。それがいいんですよ。大人はどうしても目先のことだけを考えがちですが、こういう場所に来て心が癒されるという事は凄いです。そこから大人の人が「優しくなりたい」「思いやりのある人になりたい」「大切なはお金だけじゃないな」と変わっていくのかなと思うんです。

ここから絵本作家を

——このギャラリーを拠点にやってみたいことはありますか？

絵本にすごく興味のある人や、絵本作家になりたい大人を対象とした「絵本作家養成所」をやりたいと思っています。

絵本作家になるために大切なことや、いろんな技法、印刷技術など僕が持っているものを全てを伝えたいですね。

ただ一つ言えるのは、絵本を作るのは技術ではないです。文章は誰でも書けますが、それをいかに絵本にするか、童話にするか、人に届くようにするかはそれぞれの感性で

「三島企業の考える三島カルチャー」は、三島の文化応援プロジェクトが、三島周辺に拠点を置く企業や文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所/生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等 詳しくは下記のwebサイトをご覧ください。